

持続的生産強化対策事業のうち次世代国産花き産業確立推進事業に関する事業評価票

都道府県名	市町村名	事業実施主体名	対象作物・畜種名	事業実施初年度	成果目標の具体的な内容		成果目標の達成状況			評価機関名	九州農政局	
					達成すべき目標	目標値	基準年 令和元年度	目標年 令和5年度	達成率			具体的な取組内容
福岡県	—	花あふれるふくおか推進協議会	花き	R2	活動区域における花きの10a当たり収量の増加【輪ギク】	40,950 本/10 a	(H26-30) 39,000 本/10 a	37,576 本/10 a	-73%	<ul style="list-style-type: none"> 戦略品目の生産・供給体制の強化に資する技術の導入実証 戦略品目の流通の効率化・高度化に資する技術の導入実証 低コスト・省力生産技術等の導入実証 高品質化生産技術等の導入実証 生産・加工・流通における品質管理技術等の導入実証 実需者・消費者ニーズに対応した新品種の選定と安定生産・計画出荷のための栽培技術の実証 花育体験、園芸体験等による花きの活用促進 	<p>農林水産省生産局、政策統括官、地方農政局（北海道農政事務所、内閣府沖縄総合事務局）の評価所見</p> <p>輪ギクの10a当たり収量の増加については、炭酸ガスの施用により栽植密度の増加につながっているが、燃油コスト増加の影響から加温温度を下けたため収量が確保できず、未達成となった。</p> <p>スプレーマムの10a当たり収量の増加については、炭酸ガスの施用等により栽植密度の増加が可能となったが、一部で立ち枯れ症が発生したことにより、未達成となった。</p> <p>ガーベラの10a当たり収量の増加については、炭酸ガスの施用により収量の増加が見込まれたものの、豪雨による株痛み等により収量が減少したことから、未達成となった。</p> <p>トルコギキョウの販売数量の増加については、低エタノール還元消毒による立ち枯れ症の発生軽減効果はみられたものの、夏場の高温環境下での作業を控えたことが影響し、数量が確保できず、未達成となった。</p> <p>カーネーションの10a当たり収量の増加については、赤色LED照射やEOD加温を行うことで冬季の安定生産につながり、目標を達成した。</p> <p>バラの10a当たり労働時間の低減については、天敵導入によりハダニ被害が軽減され防除回数も減ったことから、防除労力の軽減につながり、目標を達成した。</p> <p>ダリアの販売数量の増加については、炭酸ガスの施用等により冬季の収量が増加したが、燃油価格高騰の影響から加温温度を下けたことにより収量が伸び悩み、未達成となった。</p> <p>リンドウの販売数量の増加については、遮光資材により収量向上・高品質化が図られ生産量が増加するとともに、鮮度保持剤により品質保持が図られ販売量も増加し、目標を達成した。</p> <p>クルクマの販売数量の増加については、箱に入れる本数の増加による流通コストの削減効果について検証したが、栽培面積が減少しており、未達成となった。</p> <p>ユウカリの販売数量の増加については、鮮度保持剤の比較による品質維持効果の検証を行ったが、栽培面積が減少しており、未達成となった。</p> <p>アジサイの販売数量の増加については、オリジナル品種の生態特性が把握できたことで生産の安定化につながり、目標を達成した。</p> <p>花壇苗の10a当たり収量の増加については、緑色LED防蛾灯により夜蛾類の被害が軽減されたことで出荷ロスの軽減につながり、目標を達成した。</p> <p>花育又は園芸体験を受講した者の花きの購入数量が受講前に比べて増加については、継続した花育の実施により購入頻度等が増加し、目標を達成した。</p> <p>未達成の成果目標については、今後、事業実施主体に対して改善計画の提出を求め、達成に向けた取組を指導する。</p>	
					活動区域における花きの10a当たり収量の増加【スプレーマム】	39,900 本/10 a	(H29-30) 38,000 本/10 a	37,725 本/10 a	-14%			
					活動区域における花きの10a当たり収量の増加【ガーベラ】	217,000 本/10 a	(H26-30) 206,518 本/10 a	181,024 本/10 a	-243%			
					活動区域における花きの生産又は販売の数量若しくは金額の増加【トルコギキョウ】	3,024,500 本	(H26-30) 2,749,532 本	2,472,488 本	-101%			
					活動区域における花きの10a当たり収量の増加【カーネーション】	71,583 本/10 a	(H25-29) 68,174 本/10 a	71,590 本/10 a	100%			
					活動区域における花きの10a当たり又は単位数量当たり労働時間の低減【バラ】	70 h/10 a	(H26) 79 h/10 a	63 h/10 a	176%			
					活動区域における花きの生産又は販売の数量若しくは金額の増加【ダリア】	500,500 本	(H26-30) 454,969 本	303,826 本	-332%			
					活動区域における花きの生産又は販売の数量若しくは金額の増加【リンドウ】	99,000 本	(H27-R元) 89,910 本	127,400 本	412%			
					活動区域における花きの生産又は販売の数量若しくは金額の増加【クルクマ】	1,475,000 本	(H27-R元) 1,340,238 本	1,158,855 本	-135%			
					活動区域における花きの生産又は販売の数量若しくは金額の増加【ユウカリ】	65,600 本	(H30-R元) 32,783 本	37,130 本	13%			
					活動区域における花きの生産又は販売の数量若しくは金額の増加【アジサイ】	10,000 鉢		26,984 鉢	329%			
活動区域における花きの10a当たり収量の増加【花壇苗】	148,110 本/10 a	(5か年平均) 141,057 本/10 a	151,015 本/10 a	141%								
活動区域において花育又は園芸体験を受講した者の花きの購入数量又は購入金額が受講前に比べて増加	花育後の花き購入数量が実施前に比べて増加したものが30%以上	%	花育の受講者数	31.1 %	104%							

都道府県名	市町村名	事業実施主体名	対象作物・畜種名	事業実施初年度	成果目標の具体的な内容		成果目標の達成状況			評価機関名	九州農政局	
					達成すべき目標	目標値	基準年 令和元年度	目標年 令和5年度	達成率			具体的な取組内容
長崎県	—	長崎県花き振興協議会	花き	R2	長崎県内における花き生産金額の増加	91 億円	(H26-30) 82 億円	82 億円	0%	<ul style="list-style-type: none"> ・低コスト・省力生産技術等の導入実証 ・高品質化生産技術等の実証 ・花きの消費拡大プロモーション活動 	<p>花き生産金額の増加については、コロナ禍の影響により令和2年度に68億円まで減少した花き生産金額は、令和4年度は82億円まで回復してきているものの、県の主要品目である輪ギクの作付面積の減少が大きく、回復しきっていないことから、未達成となった。</p> <p>花きの消費金額の増加については、新型コロナウイルス感染拡大による行動制限がなくなり、自宅等で過ごす時間が減少したことで切り花を飾る機会が減少し、それに伴い、切り花の購入も減少したものと考えられ、目標は未達成となった。</p> <p>今後は、事業実施主体に対して改善計画の提出を求め、達成に向けた取組を指導する。</p>	
					活動区域における花きの消費量又は消費金額の増加	9,042 円	(H27-R元) 8,611 円	8,026 円	-136%			
熊本県	—	熊本県花き協会	花き	R2	活動区域における花きの10a当たり又は単位数量当たり労働時間の低減	886 h/10a	934 h/10a	723 h/10a	440%	<ul style="list-style-type: none"> ・労働時間や生産コスト削減に向けた生産技術の導入実証 ・学生を対象とした花育の実施 ・花育時に花きの生産状況等のPRを実施 	<p>花きの10a当たり労働時間の低減については、LED防蟻灯の導入により防除時間等が削減されたとともに、収穫・出荷の際の選別作業が軽減され作業全体の労働時間の低減につながったことから、目標を達成した。</p> <p>花きの10a当たりの生産コストの低減については、農薬価格の高騰等の影響があったものの、LED防蟻灯の導入により食害が軽減されたことで収穫・出荷の際の選別作業の時間が削減され、労賃も削減されたことなどによりコスト低減が図られ、目標を達成した。</p> <p>花育または園芸体験を受講した者の花き購入金額が受講前に比べて増加については、花育や園芸体験により、花きに対する興味・関心を増大させることができ、概ね目標を達成した。</p>	
					事業実施主体の活動区域における花きの10a当たり又は単位数量当たり生産コストの低減	1,125 千円	1,185 千円	1,023 千円	270%			
					活動区域において花育又は園芸体験を受講した者の花きの購入数量又は購入金額が受講前に比べて増加	受講後の花きの購入金額が受講前に比べて増加した者が30%以上	花育体験の受講者数	28 %	93%			

都道府県名	市町村名	事業実施主体名	対象作物・畜種名	事業実施初年度	成果目標の具体的な内容		成果目標の達成状況			評価機関名	九州農政局	
					達成すべき目標	目標値	基準年 令和元年度	目標年 令和5年度	達成率			具体的な取組内容
大分県	—	大分県花き産業振興協議会	花き	R2	活動区域における花きの販売業者の取扱数量又は販売金額の増加	3,075,660 千円	(H25-29) 2,929,200 千円	2,085,000 千円	-576%	・フラワーイベントの開催等による消費拡大プロモーション活動 ・花育や園芸体験による花きの利用促進	フラワーフェスティバルを開催する等、県内における花きの消費拡大を図ってきたものの、年間定期予約相対取引による県外市場への出荷が主流となっていることから、県内の販売が増加せず、未達成となった。 今後は、事業実施主体に対して改善計画の提出を求め、達成に向けた取組を指導する	
宮崎県	—	「みやざき花で彩る未来」推進協議会	花き	R2	【ランタンキュラス】 活動区域における花きの10a当たり収量の増加	66,202 本/10a	(H29) 63,049 本/10a	46,600 本/10a	-522%	・協議会の設置、運営 ・フラワーコンテスト、花文化展示会、シンポジウムの開催 ・学校・福祉施設等での花育体験推進 ・ランタンキュラスの品種選抜及び輸送方法の検討 ・キイチゴ「ベビーハンズ」苗の安定供給体制の検討 ・スイートピー染色技術・耐熱対策の強化	ランタンキュラスの10a当たり収量の増加については、暖冬の影響から生育遅延が発生するとともに、生育のピーク時に天候不順となったため開花が遅延し収量が確保できず、未達成となった。 ランタンキュラス及びキイチゴの資材費の削減については、資材価格等の高騰の影響により、未達成となった。 スイートピーの10a当たり収量の増加については、高温対策を実施することで、12～3月の出荷期間において安定的に出荷量を確保することができ、目標を達成した。 ランタンキュラス、スイートピー、キイチゴの消費金額の増加については、コロナ禍による巣ごもり需要等が減少したこと消費金額が増加せず、未達成となった。 未達成の成果目標については、今後は、事業実施主体に対して改善計画の提出を求め、達成に向けた取組を指導する	
					【ランタンキュラス】 活動区域における花きの流通経路間における資材費の削減	5.07 円/本	(H27) 5.34 円/本	5.34 円/本	0%			
					【ランタンキュラス】 活動区域における花きの消費量又は消費金額の増加	15,678 円	(H25-29) 14,931 円	12,660 円	-304%			
					【スイートピー】 活動区域における花きの10a当たり収量の増加	193,079 本/10a	(H29) 183,884 本/10a	205,420 本/10a	234%			
					【スイートピー】 活動区域における花きの消費量又は消費金額の増加	15,678 円	(H25-29) 14,931 円	12,660 円	-304%			
					【キイチゴ】 活動区域における花きの流通経路間における資材費の削減	4.84 円/本	(H25-29) 5.10 円/本	6.80 円/本	-654%			
					【キイチゴ】 活動区域における花きの消費量又は消費金額の増加	15,678 円	(H25-29) 14,931 円	12,660 円	-304%			

(注) 成果目標の達成状況欄に達成状況の経過を記載すべき事業にあっては、記載例を参考に列を挿入し、記載するものとする。

持続的生産強化対策事業のうち次世代国産花き産業確立推進事業に関する事業評価票（再評価）

都道府県名	市町村名	事業実施主体名	対象作物・畜種名	事業実施初年度	成果目標の具体的な内容		成果目標の達成状況			評価機関名	九州農政局	
					達成すべき目標	目標値	基準年 平成30年度	目標年 令和5年度	達成率			具体的な取組内容
福岡県	—	花あふれるふくおか推進協議会	花き	R1	事業実施主体の活動区域における花きの単位数量当たり生産コストの低減【輪ギク】	52.0 円/本	55.0 円/本	59.4 円/本	-147%	<ul style="list-style-type: none"> 戦略品目の生産・供給体制の強化に資する技術の導入実証 低コスト・省力生産技術等の導入実証 高品質化生産技術等の導入実証 花育体験、園芸体験による花きの活用促進 	農林水産省生産局、政策統括官、地方農政局（北海道農政事務所、内閣府沖縄総合事務局）の評価所見 輪ギクの単位数量当たり生産コストの低減については、収量は増加したものの、生産に係る資材費高騰の影響により生産コストが増加し、未達成となった。 輪ギクの10a当たり収量の増加については、密植により出荷本数を増加させることができたものの、未達成となった。 ガーベラの10a当たり収量の増加については、炭酸ガスの施用により収量増加が見込まれたものの、豪雨による株痛み等により収量が減少し、未達成となった。 トルコギキョウの生産の数量の増加については、地温や土壌水分を分析することで管理モデルを作成することができたが、高齢化や資材高騰の影響から生産者が減少しており、未達成となった。 カーネーションの単位数量当たり生産コストの低減については、収量は増加したものの、生産に係る資材費高騰の影響により生産コストが増加し、未達成となった。 アジサイの販売の金額の増加については、オリジナル品種の生態特性が把握できたことで生産の安定化につながり、目標を達成した。 未達成の成果目標については、今後、事業実施主体に対して改善計画の提出を求め、達成に向けた取組を指導する。	
					活動区域における花きの10a当たり収量の増加【輪ギク】	41,126 本/10a	(H24-29) 39,164 本/10a	37,576 本/10a	-81%			
					活動区域における花きの10a当たり収量の増加【ガーベラ】	224,720 本/10a	(H24-29) 214,019 本/10a	181,024 本/10a	-308%			
					活動区域における花きの生産の数量の増加【トルコギキョウ】	3,364,900 本	(H26-30) 3,059,000 本	2,472,488 本	-192%			
					事業実施主体の活動区域における花きの単位数量当たり生産コストの低減【カーネーション】	46.0 円/本	49.0 円/本	54.8 円/本	-193%			
					活動区域における花きの販売の金額の増加【アジサイ】	31,963 千円	(H25-29) 29,057 千円	32,380 千円	114%			
長崎県	—	長崎県花き振興協議会	花き	R1	長崎県内における花き生産金額の増加	90.2 億円	82 億円	82 億円	0%	<ul style="list-style-type: none"> 低コスト・省力生産技術等の導入実証 高品質化生産技術等の実証 生産・加工・流通における品質管理技術等の導入実証 花きの消費拡大プロモーション活動 	コロナ禍の影響により令和2年度に68億円まで減少した花き生産金額は、令和5年度には82億円まで回復してきているものの、県の主要品目である輪ギクの作付面積の減少が大きく、回復しきっていないことから、未達成となった。 今後は、事業実施主体に対して改善計画の提出を求め、達成に向けた取組を指導する。	

都道府県名	市町村名	事業実施主体名	対象作物・畜種名	事業実施初年度	成果目標の具体的な内容		成果目標の達成状況			評価機関名	九州農政局	
					達成すべき目標	目標値	基準年 平成30年度	目標年 令和5年度	達成率			具体的な取組内容
大分県	—	大分県花き産業振興協議会	花き	R1	活動区域における花きの販売業者の販売金額の増加	3,075,660 千円	(H25-29)	2,929,200 千円	2,085,000 千円	-576%	<ul style="list-style-type: none"> ・フラワーコンテストの開催等による消費拡大プロモーション活動 ・花育や園芸体験による花きの利用促進 <p>フラワーフェスティバルを開催する等、県内における花きの消費拡大を図ってきたものの、年間定期予約相対取引による県外市場への出荷が主流となっていることから、県内の販売が増加せず、未達成となった。 今後は、事業実施主体に対して改善計画の提出を求め、達成に向けた取組を指導する</p>	
鹿児島県	—	かごしまの花消費拡大推進協議会	花き	R1	鹿児島県におけるレザーリーフファンの販売数量の増加	7,617 千本	(H24-28)	6,924 千本	3,430 千本	-504%	<ul style="list-style-type: none"> ・実需者商談会への参加による夏秋スプレーギクの新規販路の拡大 ・レザーリーフファンの計画出荷のための貯蔵技術の検討 ・消費地におけるプロモーション活動の実施によるテッポウユリ新品種「プチホルン」の認知度向上 <p>レザーリーフファンの販売数量の増加については、生産性の向上や流通の効率化に係る取組の実施により生産・販売の拡大図ったが、コロナ禍で業務需要が低迷し、当該品目が大きな影響を受けたため、未達成となった。 レザーリーフファンの販売業者の取扱数量については、回復傾向にあるものの、未だコロナ禍による業務用需要低迷の影響が残っていることなどから、未達成となった。 今後は、事業実施主体に対して改善計画の提出を求め、達成に向けた取組を指導する。</p>	
					鹿児島県におけるレザーリーフファンの販売業者の取扱数量の増加	6,232 千本	(H25-29)	5,935 千本	3,431 千本	-843%		

(注) 成果目標の達成状況欄に達成状況の経過を記載すべき事業にあっては、記載例を参考に列を挿入し、記載するものとする。